

平成26年度 第1回磐田市子ども・子育て会議 会議録

開催日時 : 平成26年5月12日(月) 13:30～15:30
出席者 : 委員11名
事務局 : 12名

1. 開会

2. 会長あいさつ

会 長 : 年度の変わり目ということで委員の入れ替わりもあったが、また新たに今年度も子どものために話し合いができたと思う。今回は昨年度とは違った新しいやり方を考えている。色々なご意見が出れば良いと思う。

3. こども部長あいさつ

部 長 : 4月に健康福祉部から『こども部』に独立し、1か月が経った。今年1年のこども部の方針は、市民から「子育てだったら磐田市」と言われるまち、その中で安心して生み育てられる環境を作ること、特に一貫した子育て支援、妊娠期から就学までを連携していく。子ども達、個々の生きる力を身に付けさせる。今年の最大の取組みは、来年度より施行される子ども・子育て支援新制度への移行をきちんとすること、その中で昨年度3回会議を開催し、様々なご意見をいただいた。制度の狙いとしては、質の高い幼児期の保育の展開、子育て相談・一時預かりなどの地域の子育ての充実への取り組み、待機児童の解消の3点を大きな狙いとしている。さらに今日的な狙いとして、発達障害などの色々な子どもへの対応についても議論していただきたいと思う。

4. 新任委員紹介

5. 事務局紹介

6. 意見交換

会 長 : 大勢の中で意見をいただくということは発言の機会が少なくなってしまう。今年度は、計画策定に向けて磐田市の計画の基本となる部分について十分にご意見をいただきたいので、一度3つのグループに分かれて同じ議題について話し合いを行いたいと思うがどうか？

委員の賛成により了承。

事務局 : 今年度の会議開催予定。今年度は5回開催。次回第2回は6月17日、テーマは発達障害へ

の取り組みについて。第3回は7月17日、テーマは地域における子育て支援。第3回まではグループワークを取り入れて率直なご意見をいただきたい。その後皆様からのご意見を基に、策定委員会に諮る。第4回は11月に予定、計画の素案を示したい。その後パブコメを経て、第5回を来年1月に予定。

委員：磐田市で子ども憲章を作ると聞いたが、それとこの会議はリンクしているのか？

事務局：最終的には繋がりがあるかもしれないが、会議では事業を作る、憲章は理念を作る。直接は連携しないと考えてもらいたい。

(1)延長保育について

延長保育について、事務局より説明。延長保育を実施している委員より現状説明。

<質疑応答>

委員：表を見ると、19時までは200円、19時以降は700円となっているが、これは19時になると500円追加されて700円になるということなのか？

事務局：その通りである。表の金額は、最終の支払い金額になっている。

委員：100円、200円で、先生のお金はまかなえるのか？

委員：その時間だけでみると無理。

会長：延長保育で残る子どもはいつも同じ子ども？

委員：半々くらい。

(2)病児・病後児保育について

病後児保育を実施している委員より現状説明。

<質疑応答>

委員：看護師は常駐しているのか？

委員：常駐している。

委員：定員は1日2名、月40名。多い月で12名の受入れ、1日1,000円との話であったが、運営していくのは厳しいのでは。

委員：運営していく上で行政からサポートはあるのか？

委員：行政から補助金があるので実施できている。保育士よりも看護師の方が金額がかかる。募集をかけていてもなかなか応募してもらえない。

委員：市としてのキャパはどれくらいあるのか？

事務局：昨年度実績としては、6か所の園で実施。定員は、こうのとり保育園3名、いずみ保育園2名、いずみ第3保育園3名、こうのとり東保育園6名、みなみしま保育園2名、とみがおか保育園2名。

委員：他園からの受け入れは？

事務局：行っている。実情として、公立の保育園にも仕組みはあるが、看護師が確保できず、事業

が実施できていない。

委員：看護師を確保できないのは賃金の問題か？

委員：賃金の問題もあるかもしれないが、業務内容の問題。保育を行うので子どもに興味があること、医療技術のキャリアアップを望めないことが原因になっているのかもしれない。

委員：行政として、看護師資格を持っているが様々な理由で退職したというような方を採用するということはないのか？

事務局：看護師の採用に関しては、様々な形でアプローチして確保していきたいと考えている。先ほど委員がおっしゃるようにサービス事業的には、企業には理解できない運営と仕組みになっている。預かれば預かるほどお金がマイナスになっていく。

子どもを多く預かれば預かるほど、市費も国費もマイナスになっていくが、子育て支援策として、この事業を業務量・事務量・人をどのぐらい確保してやっていかなければならないのかということ今回議論していただきたいので、今はスキーム側、仕組みは置いておいていただきたい。ニーズ結果が出ているので、将来磐田市がどこの方向へ向かっていけば良いのかをグループワークで話し合っていたいただきたい。

3つのグループに分かれグループワークを実施、グループごと発表。

<Aグループ>

- ・19時以降の延長保育については、子どもには成長に必要な睡眠時間があるので、仕事があって19時以降の保育が必要な場合のみ個別に対応すれば良いのではないかと。
- ・病児病後児保育については、必要ではあると思う。ただ、実施する園を決めて行うと良いのではないかと。安易に預ける人が増えないようにしなくてはならない。
- ・地域ぐるみ、半径500mくらいで、近所の高齢者などに頼めると良い。
- ・市から企業に、子どもが病気の際には休みやすいように働きかけてはどうか。
- ・地域の力、高齢者の力を活用することができないか検討すべき。
- ・子どもの成長に必要な睡眠や食事についてのパンフレットを作成・配布してはどうか。

<Bグループ>

- ・19時以降の延長保育については、子どもの発達支援の視点から見ると良くない。使いやすくしてしまうと、それに甘えてしまう。
- ・どうしても働かなければならないひとり親世帯への対応をどうするか。
- ・どのような家庭をターゲットに制度を作っていくか。
- ・病児病後児保育については、利用者側にも考慮してもらいたい。本来、子どもは親に看てもらいたいし、親も子どもを看たい。企業側が休ませてくれない状況を解決すべき。
- ・病児病後児保育は働く母親にとって、最後の砦として必要だと思うが、ママサークル等を作り、自宅に訪問してお互いに子どもをみるといった仕組みも必要ではないか。
- ・親の利用しやすさだけでなく、病気で心細くなっている子どもの気持ちを大切に。

<Cグループ>

- ・19時以降の延長保育については、実態は19時以降の需要がさほどないが、現在保育園で19時以降という時間がないので、保育園側に保護者が合わせているだけではないか。
- ・子どもにとって、睡眠時間や生活リズムの確保は大切。
- ・親の働き方は製造業・サービス業など様々な職種があり、一概に括れるものではないが、総合的に考えて19時までとするのが良いのでは。これによって親側も時間の定めがあるためズルズルと預けることにならないのでは。
- ・病児病後児保育については、子どもが病気をすることが多くなる時期があるが、これによって親の仕事のキャリアが寸断されるのはもったいない。やり方は検討しなくてはならないが病児病後児保育は必要である。
- ・すべての保育園で病児病後児保育を実施したほうが良い。
- ・市がしっかりと取り組むことにより、親に安心感が与えられる。

<意見交換>

委員：延長保育を利用しなければならぬやむを得ない事情は必ずある。例えば、私の園では「お兄ちゃんの参観会がある」「おばあちゃんを病院に連れて行く」など。延長保育は必要。しかし、一番大切なのは、成長に必要な睡眠のゴールデンタイム（22時から26時まで）の大切さ、22時からの4時間の間に成長ホルモンが出ること、学力・心の安定にもつながることを伝えるということ。親の中には、寝るのが22時になっても保育園でお昼寝をしているから睡眠は足りていると勘違いしていると思うが、このゴールデンタイムまでにどれだけ深い眠りになるかが重要だということ伝えていかなければならない。

幼稚園・保育園の園長研修で睡眠について話し合った時に「夜9時までには寝ましょう」ということになった。しかし、中には「行政や保育園は、面倒で早く切ろうと思っている。早く帰りたいから切ろうと思っている。」と考えている親もいる。そうではなく、子どものため、睡眠時間の大切さを考えていることだということ伝えるべき。どういう意味をもって磐田市は19時までにしてしているのかをしっかりと親に伝えていかなければならない。

病児・病後児保育については、子どもが怪我や病気をしたときは心細くて当たり前、大好きなお父さんお母さんに寄り添ってもらいたい。親だって、普段はガミガミ怒っている子どもが、病気で苦しそうにしているの、つい優しい声かけをする。子どもも普段は甘えられないのに、そういう時は思い切り甘えられる。親子で関わる、親子の絆を作る良い機会を得たのだということを考えてもらいたい。その上で、絶対休むことができないという所もあると思う。だからそういう所はぜひ市から事業者へ言っていただきたいし、できれば市で、不定期で良いので従業員のアンケートを取るなどしていただきたい。言い方は悪いかもかもしれないが、結果を子育てブラック企業として発表する。

「うちは子育てに理解がある」という会社は、最終的には良い人材が集まってくると思う。子どもが病気の時にすぐに行かせてくれる状況であれば、子どもが元気な時は余計に仕事を頑張れると思う。逆に、子どもが気になってイライラしながら仕事をしていて仕事にな

るのか。どうしてもやむを得ないこともあると思うが、そういうところを分かってもらいたい。

子育てをするのに「お金を出せば解決する」ではなく、半径500m以内にどのくらい友人・知人・信頼関係を築いている人を作っているか。もし地震があったら、子どもが家に1人であるかもしれない、家に帰ることができないかもしれない。その時に近所の人「大丈夫？」と来てくれるような関係を作っておく。先日の関東の大雪で、親が帰ることができなかったが、その時に近所の人を駆けつけてくれて、朝まで子どもと一緒にいてくれて事無きを得たという話があったが、その関係が今こそ大事なのではないか。

みんながお金を出して解決する施設ももちろん必要だが、それを充実させてしまうと「頼めば良い」となってしまう。「お願いするけれど、何かの時には私が助けるよ」というお互いそういう関係を作る、子育てはお互い様。もっと言うと、おじいちゃん・おばあちゃんにもお願いする。お願いされると、おじいちゃん・おばあちゃん達だって嬉しい。そういう関係を半径500m以内にどのくらい作れるか、たくさんあればあるほど、子どもも健全に育つし、万が一の時だって安心できる。

会 長：委員がおっしゃった、半径500m以内のコミュニティ、今回のニーズ量調査をみていて、磐田市は復活させないといけないほど低下はしていないと思う。今それを作ればやりやすいのではないか。ニーズ量調査の回答率や「周りに預けることができる人」の率など、全国的に都会の地区に比べて恵まれていると思う。

前回会議で保留となっていた放課後児童クラブ利用アンケート調査結果について、事務局より説明。

<質疑応答>

委 員：週5日の児童クラブの利用を希望している人が4～6年生それぞれ20人前後いるが、その割には土日利用の希望があまりないように思うが。

事務局：平日の利用希望はそれなりにある。

新制度の方では6年生まで、小学生というくくりの中での受け入れになるが、受け入れる事ができるか。人材やキャパの問題が、地域によって偏りもあるので、できる範囲で段階的にやっていける方策を考えていかなければならない。

委 員：放課後児童クラブは18時まで。幼稚園・保育園の延長保育は19時まで。それぞれ事業が違うのだが、継続性をみると、小学校入学までは19時までだったのに入学した途端に18時までになってしまう。そのあたり行政はどのように考えているのか。普通は逆。小さい時はなるべく親がみて、だんだん大きくなったら一人でいられる。

事務局：放課後児童クラブも、幼稚園・保育園の延長保育と同様に保護者のお迎えが原則となっている。延長保育と対応は一緒であると思う。ただその時間の差をどのようにしていくかということは今後考えていかななくてはならないと思っている。

夏休みになると、利用時間は8時からだが、7時過ぎには子どもが入口で待っているという現状もある。いろいろな事を決めていかなければならない。

事務局：昨年度のアンケート調査の時に、放課後児童クラブのアンケートをとるか否かということが全国的にも議論になった。国からはアンケートをとらなくても良いとのことだったが、磐田市は児童クラブを加味して実施した。しかし将来的な見込みとして、放課後児童クラブがあった方が良いと回答した人があまりに多いのではないかとということもあり、協議の結果、放課後児童クラブの利用者アンケートを実施した。ほぼ具体的な数字になったのではないと思う。

市の行う事業に関しては、施策も含めて様々な事業を考える。先ほどグループワークをして頂いた中には、この事業はどうするかという議論もあったが、そうではなく今回皆様からいただいた声を基に、色々な事業がはたして必要か否か、という核心の部分を探り取った。皆様から「子どもの育ちを優先に考えよう」「地域みんなで考えていこう」「行政がサービスだけ拡大するのが果たして良いことなのか？」という貴重なご意見をいただいた。それを参考に事務局レベルで詰めて、今後の市の施策・計画策定にいきたいと思っている。

委員：2歳まではテレビは必要ないという話があるが、実際テレビを消してはどうか？親が無理やりテレビを消してはどうか？ということがあって、出たのが「おやこんぼ」という私立幼稚園でずっと行っている事業。毎月15日を「おやこんぼの日」としてノーテレビデーとし、お父さん・お母さんが子どもに関わりましょう、としている。具体的に関わると言っても、何をすれば良いのか分からないと思うので、私の園では年少児に“しりとり遊び”や“間違い探し”、年長児にはレシピを配布して親子クッキングを行っており、成果をあげている。「毎日おやこんぼの日でいい」という子ども達もいるし、親も「日曜日におやこんぼになったら絶対無理だと思っていたが、実はテレビをみせていたのは親の方だった」と言っている。お父さんも月に1日だったら早く帰って頑張れるというところもある。おやこんぼは沼津市で始まった。沼津市は公立幼稚園2園、私立幼稚園23園。私立幼稚園で始まって、その後保育園でも行うようになり、小学校入学までにほとんどの子どもがおやこんぼを経験している。そこで小学校でもやろうということになり、現在沼津市ではほとんどの小学校と、私立幼稚園、保育園で行うようになった。親子の関わりといっても難しいので、何かを決めてあげて、さらにノーテレビにすることが大切。テレビを消せば結構時間ができてくる。時間ができてくると「何かやるか！」となってくる。磐田市でも進めていただきたい。一人でやるのは絶対無理。地域でやればできる。ぜひ検討していただきたい。

7. 事務連絡

次回会議の開催は6月17日を予定。

8. 閉会